

わたしたちのANNIVERSARYものがたり

令和3年度みどり葉の集いのテーマは「ANNIVERSARY」

幹事を務める私たち42回卒業生（平成3年卒）にとっては、高校3年生の9月、3日間にわたる学校祭の最後を飾る営火祭でユーミン（松任谷由実）の「ANNIVERSARY」をみんなで歌ったこと、ユーミンのラジオ「オールナイトニッポン」で放送されたことは、心に残る思い出です。このページでは、営火祭の思い出を振り返るとともに、テーマが決まった経緯や、テーマへの思いなどを紹介します。

1990年秋、はじまりは、高校3年生の営火祭

営火祭実行委員だった西村亮一君に当時を振り返っていただきました。

「今年の営火祭は生徒みんなで一つになれるイベントをしたい。何かアイデアない？」
リーダー水崎君（みっちゃき）から実行委員への問いかけだった。みっちゃきと僕は松任谷由実のオールナイトニッポンを毎週聞いていた。
「最近中学生がユーミンの曲を合奏していたのをオールナイトニッポンで放送してなかった？それより高校生1000人で歌います企画すごくない？採用にならないかな？」
「曲何する？『ANNIVERSARY』高校の思い出記念の日ということで！」
「営火祭メンバーに伝えてたくさん手紙を送ろう！」
営火祭メンバー10人ぐらいが一斉にユーミンへ手紙を送った。それから毎週、オールナイトニッポンの放送時間（日曜日1:00～3:00）が来ると120分テープをセットし録音をし続けた。あきらめかけた3週目、あのユーミンからの
「高志高校の皆さん楽しみに待っています！」
全国放送で僕たちにユーミンが呼び掛けてくれた。深夜2時、携帯もない時代であったが、迷わず家の固定電話をにぎり僕はみっちゃきに電話。すぐみっちゃきも出る。
「ほんとに読まれたな、どうする？みんな歌うか？」
興奮と、不安でその日は眠れずに朝を迎えた。
次の日みっちゃきから、
「絶対成功させる。いや成功できる。この営火祭のメンバーならば！まずは全校集会でこのユーミンの放送をながして、みんなが『ANNIVERSARY』を歌えるように覚えてもらおう！」
そしてこの年の営火祭「高志高生1000人で松任谷由実『ANNIVERSARY』を歌おう」企画がスタートした。



営火祭実行委員メンバー
リーダーは水崎維亮君



フィナーレは全員合唱
『高志高校新聞』148号（平成2年10月）
高志高等学校新聞部 1990より

同級生アンケートより

- 屋上から張りぼての地球が割れて、中から火玉が飛び出して、校庭の松明に点火される案は私が考えて、水崎くんを初め実行委員の子達が一生懸命製作してくれたのは、一番の思い出です。
- 校舎から火のついた地球がワイヤー上を滑ってきて、グラウンド中央の井桁に組んだ薪に点火する。今なら「危ないから」といってさせてくれないかもしれない。
- 憧れの人とフォークダンスで手を繋げるか、ドキドキしていたのと、暗い中の炎を見て、ワクワクしていたのを思い出します。
- 当時は当り前の学校祭、営火祭だったけど、今考えるとあの人数で一つになるってすごいことですね。大人になってはおのこと、こんな経験最初で最後でしょう。そして、ユーミンの番組が、未だ続いているのが、これもすごい！
- 当日はシケンゲダンスのユニフォーム（裸に腰巻）で営火祭に臨んでいました。クライマックスは気がついたら見知らぬ生徒たちと肩を組んで泣きながら大合唱していたのを覚えています。公衆の面前で裸で泣きながら絶唱するというチュエーションは、後にも先にもないだろうと当時思っていたのですが、現在までまだそういう機会はありません。

ユーミンのオールナイトニッポン 1回目（1990.7放送）

営火祭実行委員の生徒たちが、ユーミンに送ったお願いの手紙が紹介される

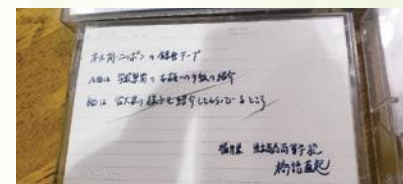
「ユーミンにお願いがあってペンをとらせてもらいました。」

営火祭のテーマ曲「ANNIVERSARY」を、全校生徒1000人で大合唱するので、その様子をラジオで流してほしいとお願いしました。

ユーミンは、「いま、読んだとたん鳥肌がたった、宇宙を見ました」とコメント。

手紙は、ほかの生徒からも、送っていました。

「あ、違う手紙には1500人ぐらいって書いてありますよ、こっちの手紙には3000人って書いてありますけど、どれが本当なんでしょうか（笑）。お待ちしていますのでがんばってください！」



橋詰直起君の家で、30年間ひっそりと保管されていた録音テープ

「これが実現すればぼくらにとって、この営火祭の夜は一生忘れられない夜となるでしょう。」

（ユーミンに送った手紙より）

ユーミンのオールナイトニッポン 2回目（1990.9.22放送）

全校生徒で歌った「ANNIVERSARY」が放送

「結果からいうと、もう予想以上の大成功でした。」

「すごいインパクトのある手紙が届いたんでね、それを紹介したいと思うんですよ。」

「『ANNIVERSARY』を1000人で歌ってしまおうという、大それた企画をラジオで紹介してもらった高志高校の水崎です。」と、手紙が読まれました。

エンディングでは、制服の生徒たち、ステージにいるスタッフの生徒たちなど、生徒みんなが、大きな紙に書いた歌詞をみながら、心を一つに大合唱。踊ったり、叫んだり、「もうぐじゃぐじゃってかんじ」ほど、盛り上がった様子がラジオで紹介されました。

「もう最後は、涙あり、胸上げありの感激しまくりのエンディングでした。ユーミンのおかげで、高校生活最後の思い出ができました。どうもありがとうございます。」

ユーミンのコメント。

「あー、なんかー、最後私の名前を呼ばれたら鳥肌がたってしまっって・・・1000人ぐらいの声だと増幅するパワーがありますね。妙にリアルで鬼気迫るものがありました。どうもありがとうございます。高志高校のみなさん。」



体育祭の興奮も冷めぬまま、営火祭が無事行われた。
“西暦2000年、太陽系の惑星地球が今、滅亡しようとしているー今年、火の玉がやぐらめがけて落ちるといって斬新な形で点火ー新しい生命の誕生である”
燃えさかる炎を背に、まず、ウルトラクイズが行われた。賞品は優勝者のクラス全員に、カツ丼のサービス。そして、それを目指して難問に挑んでいく生徒達。（中略）
バンド演奏で、全体のムードが再び盛り上がり、続く“ANNIVERSARY”の合唱で、最高潮に達した。

『高志高校新聞』第148号（平成2年10月）
高志高等学校新聞部 1990より

同級生アンケートより

- 今聞いても、涙がでそう。
- 校内放送で繰り返し流れていた「ANNIVERSARY」は何回も聴いて、営火祭のときにはすっかり歌えるようになってました。今も「ANNIVERSARY」を聴くと、放課後教室で衣装を縫っている同級生や校庭で作り物をしている同級生の姿を思い出します。
- 陽が沈んだグラウンドの真ん中で火を囲み、ユーミンにこの思い届けー！とばかりに大声で歌ったことを覚えています。
- 改めて、ラジオの放送を聞いて、泣きそうになりました…すごく盛り上がって、とにかく楽しくかったのと、終わるの淋しい！と思いながら歌っていたのを思い出しました。営火祭後のユーミンのラジオもリアルタイムで感激しながら聞いたのを覚えています。
- ユーミンのラジオを聞くと、営火祭で校庭に響く歌声とゆらゆら揺れる炎が思い出されます。
- ラジオ録音を聞いて、その元気よく歌う様に笑ってしまいました。もっとしっとり歌っていると思っていたので。記憶は美化されるものですね。
- このオールナイトニッポン投稿企画を考えたN君と自転車での下校途中に企画の話聞いた覚えがうっすらあります。フォークダンスのやつ営火祭って言うんですね。初めて知りました。なんかドキドキして記憶しかないです。
- 当時は仲良しと校庭の隅で観てました！団体行動がちよっと苦手だったのかもかもしれません。
- 参加すれば良かったな、とちよっと後悔してます。
- 間違いなく高校3年のみんながいたという事実。ユーミン宛に手紙を書いた水崎くんが、今はいないという現実。時の流れを感じずにはられません。

令和3年度みどり葉の集いのテーマは思い出の曲「ANNIVERSARY」から

🍀 テーマが決まるまで

2020年1月2日、学年同窓会。約30年振りの再会となるその日、1本の古いカセットテープが橋詰君の家で見つかる

橋詰直起君（当時の生徒会長）が同窓会に持ってきたのは、ユーミンのオールナイトニッポンで、私たちが営火祭で歌った「ANNIVERSARY」を取り上げてもらったときの録音テープでした。

録音を聞いた瞬間、営火祭での思い出が、30年の時を越えて色鮮やかによみがえり、一同の胸が熱くなりました。



第1回実行委員会（2020.2.15）

テーマが ANNIVERSARY に決まる～新たな集いへの記念日～

第1回実行委員会には、同級生40人ほどが集まりました。テーマについて、いろいろ話し合い、あの時の感動をもう一度味わうとともに、また新たな関係を築いていこう! ということで満場一致で、テーマが「ANNIVERSARY」に決まりました。

6月第2土曜日は、世代を超えてすべての高志高校の卒業生にとって毎年共通の記念日です。年齢関係なく、同じみどり葉会の会員としてその思いを分かち合いましょう! という意味もこめています。



最後の一押しコメントで、
テーマが
「ANNIVERSARY」に
決まった瞬間



ユーミンへ送った手紙～奇跡のテープとともに～

🍀 30年の時を越えて… ユーミンのラジオに（2020.3.27放送）

30年後の今も続くユーミンのラジオ「松任谷由実のオールナイトニッポン GOLD」で、当時の録音テープが取り上げられ、高校時代の「ANNIVERSARY」の歌声が放送されました。

「一編の映画を見るような、ぐっときますねー。」とユーミン。共演していたリリー・フランキーさんは、「これいいですよー。」と、興奮した口調で語り、ユーミンは、こう続けました。

「これがラジオのいいところだなんて思ったりしてね。こういう時の越え方。」

「真っ先に頭に思い浮かんだのはキャンパファイヤーの赤い炎を囲み『ANNIVERSARY』を生徒全員が一つになり合唱したこと、そして田舎の高校生の大それた願いをユーミンが取り上げてくださり、その放送を聞いた鳥肌が立つような瞬間のことでした。」

（ユーミンへ送った手紙より）

同級生アンケートより

- 🍀 オールナイトニッポンのラジオ放送を30年ぶりに聴いたときには、営火祭の夜を思い出して、胸がいっぱいになりました。ユーミンが変わらず番組を担当していること、ラジオでまた読んでもらったこと、たくさんの奇跡が重なりましたね。「ANNIVERSARY」は、わたしたちにとって忘れられない一曲になりました。
- 🍀 当時の録音を聞くと、うれしかったこと、悲しかったこと、いろいろなことが鮮明に思い出されます。これが音の持つ力なんではないか、すごいと思いました。中年の思い出にもかなりの影響をしそうに感じています。どんな影響が出るかは、次のANNIVERSARYのお楽しみですね。
- 🍀 ほぼ30年ぶりの再会なので、平成の間をそれぞれががんばって駆け抜けてきたんだなと思うと感慨深いものがあります。その意味で記念日なんだろうと。
- 🍀 この曲を聞くと、いかなる状況でも、一瞬で高校時代を思い出し、切ない気持ちになります。42回卒を象徴するのに、これ以外に相応しいものはない。
- 🍀 記憶とともに同級生が共有する思いを一言で表せる言葉で本当に良かったと思います。
- 🍀 なぜANNIVERSARYなのかあまり深い意味も考えずに若さと勢いだけで大合唱していた営火祭。あれから30年。年齢を積み重ね、経験を積み重ね、人生の節目節目のANNIVERSARYを積み重ね、みどり葉という旗の下に集った私たちに神のお告げのように舞い降りてくれた意味深いテーマだと思います。変革を求められる社会状況で、これまでにない同窓会の形にチャレンジするチャンスももらいました。私たち42回生がANNIVERSARY請負人として令和3年6月12日をみどり葉の後世に残るような記念日にできたらと思います。